

Indonesia Bi-Weekly Vol. 79

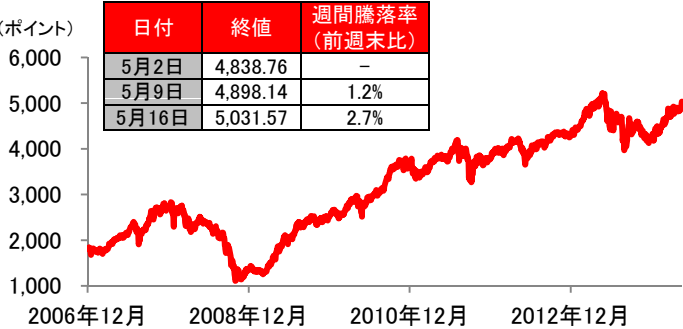
(対象期間: 2014年5月5日~2014年5月16日)

英国ブルーデンシャルグループ 



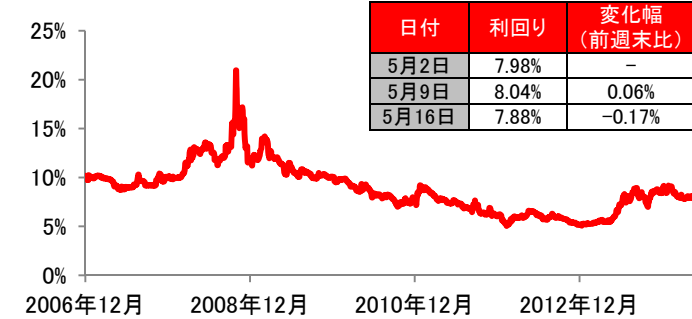
インドネシアでは総選挙の結果が正式に発表され、大統領選挙に向けた連立協議が大詰めを迎える中、インドネシアの代表的株価指数であるジャカルタ総合指数は、5,000ポイントの大台をおよそ11ヵ月ぶりに超え、為替市場では対米ドルでインドネシアルピア高が進みました。また、10年国債利回りは低下(価格は上昇)しました。総選挙の結果と大統領選挙に向けた連立協議については、2ページ目の基礎講座をご参照ください。

【株式市場】ジャカルタ総合指数の推移



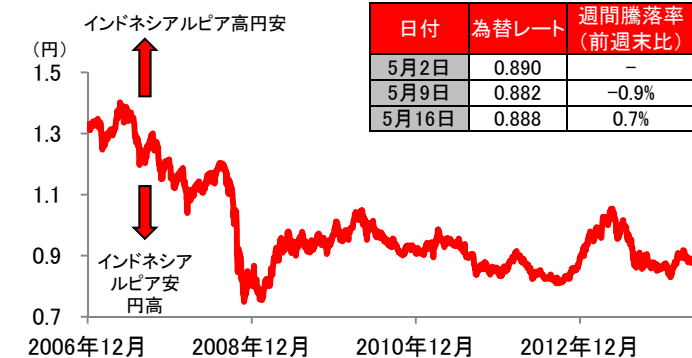
出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
上記のグラフは2006年12月28日からの推移を示しています。

【債券市場】インドネシア国債利回りの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
上記のグラフは2006年12月29日からの推移を示しています。

【為替市場】インドネシアルピアの対円レートの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
上記のグラフは2006年12月29日からの推移を示しています。(100インドネシアルピア対円レート)

【株式市場】

全てのセクターが上昇する中、個別銘柄でも主要銘柄の多くが上昇しました。特に上昇が目立ったのは、5月14日に前期比倍増の配当を発表したセメント・メーカーのインドセメント・トゥンガル・プラカルサで、対象期間中に11.3%上昇しました。

【債券市場】

インドネシア10年国債の利回りは、5月8日に一時8.1%を超える水準に上昇しました。しかし、大統領選挙の構図が次第に明らかとなる中、大統領選挙後の新政権による構造改革への期待から対象期間末にかけて低下し、7.88%で対象期間の取引を終えました。

【為替市場】

為替市場では、対米ドルでは0.9%のインドネシアルピア高となりました。大統領選挙の候補は2名に絞られつつあり、政治的不透明感は薄れつつあります。一方、102円台から101円台半ばまで円高米ドル安が進んだことから、対円では0.2%のインドネシアルピア安となりました。

【ニュース】

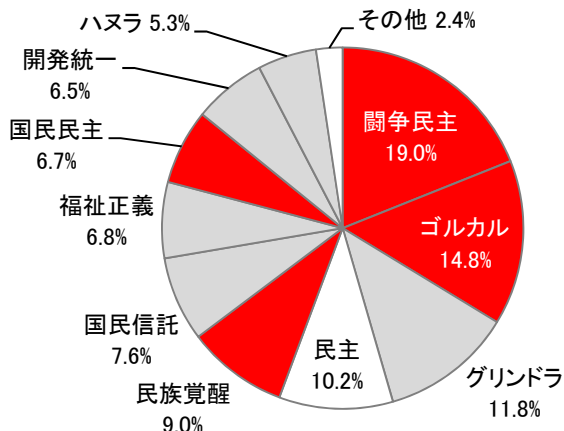
	経済成長率鈍化するも、民間内需は堅調
経済	5月5日に発表されたインドネシアの2014年1-3月期の実質国内総生産(GDP)成長率は前年同期比+5.21%と、前期の同+5.72%から鈍化し、2009年7-9月期以来の低い伸び率となりました。しかし、支出別内訳をみると、成長鈍化の主な要因は外需と政府消費で、個人消費は伸びを加速させる一方、投資(総固定資本形成)は持直しています。個人消費は2012年と2013年ともに前年比+5.3%でしたが、2014年1-3月期は前年同期比+5.6%に加速しました。また、投資は2012年の前年比+9.7%から2013年の同+4.7%に大きく鈍化しましたが、2014年1-3月期は前年同期比+5.1%とやや持直しています。インドネシアの成長をけん引してきた民間内需は堅調です。
	インドネシア中央銀行、政策金利を据置き
金融	インドネシア中央銀行(BI)は5月8日の金融政策決定会合で、政策金利を7.50%に据置きました。BIはインフレ圧力の抑制と通貨の安定を目的に、昨年6月から11月までに政策金利を5.75%から7.50%に引き上げましたが、その後は据置いています。金融政策の効果により、物価上昇率は鈍化傾向が続く一方、昨年の通貨安の大きな要因であった経常赤字は縮小に向かっています。8日に発表された2014年1-3月期の経常赤字はGDP比2.1%と前年同期の同2.7%から縮小しました。

Vol.79 (対象期間: 2014年5月5日～2014年5月16日)

【インドネシア基礎講座】大統領選に向けた連立協議大詰め

インドネシアでは総選挙の正式な得票率が5月9日に公表され、7月9日の大統領選挙の有力候補が絞られてきました。総選挙では、ジャカルタ特別州のジョコ・ウイド知事を大統領候補に擁する最大野党の闘争民主党が第一党となりました(図表1)。しかし、大統領候補の擁立に必要な得票率の25%に単独で届いた政党はなく、連立協議が続いています。5月14日には、民族覚醒党と国民民主党がウイド氏支持を正式に表明しました。一方、総選挙で第三党となったグリンドラ党のプラボウォ・スピアント元陸軍戦略予備軍司令官は14日、国民信託党の党首で経済担当調整相を辞職したハッタ・ラジャサ氏を副大統領候補に指名しました。大統領選挙はウイド氏とスピアント氏の一騎討ちとなる可能性が高くなっており(図表2)、7月の選挙で過半数を獲得する候補がなく決選投票にずれ込む可能性は薄れつつあります。しかし、総選挙で第二党となったゴルカル党がウイド氏を支持するのか、現職のユドヨノ大統領が党首の民主党がどう動くのかなど不確定要素も残っています。正副大統領候補の受付は当初の5月10日から20日に延期されています。

(図表1)インドネシア総選挙開票結果—政党別得票率



(図表2)有力大統領候補

大統領候補	所属政党	連立政党	副大統領候補
ジョコ・ウイド ジャカルタ 特別州知事 (52歳)	闘争民主党	ゴルカル党 民族覚醒党 国民民主党	ユスフ・カラ 元副大統領 元ゴルカル党 党首
プラボウォ・ スピアント 元陸軍戦略 予備軍司令官 (62歳)	グリンドラ党	国民信託党 福祉正義党 開発統一党 ハヌラ党	ハッタ・ラジャサ 国民信託党党首 (経済担当調整相を 5月13日に辞職)

四捨五入の関係上、合計値が100%にならないことがあります。

5月16日時点の情報です。上表には、各種報道に基づく観測も含まれています。特に、ゴルカル党の闘争民主党との連立や、ウイド氏の副大統領候補はまだ流動的です。

出所:上記の図表はいずれも、各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社について
165年以上の歴史を有する英国の金融サービスグループの一員です。

- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社は、1999年の設立以来、日本の投資家のみなさまに資産運用サービスを提供しています。
- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社は、英国、米国、アジアをはじめとした世界各国で業務を展開しています。
- 最終親会社グループはいち早くアジアの成長性に着目し、アジアでは14の国や地域で生命保険および資産運用を中心に金融サービスを提供しています。最終親会社グループの運用資産総額は、2013年12月末現在、約4,430億ポンド(約77兆円、1ポンド=173.76円)に上ります。



アジア株式・債券の運用拠点であるイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)リミテッドについて

- アジア地域を幅広くカバーする資産運用会社で、インドネシアを含むアジア株式・債券に関する専門知識と豊富な経験を最大限活用した運用を行います。
- 株式運用においてはボトムアップ・アプローチによる銘柄選択で厳選したポートフォリオの構築とリスク管理を重視、債券運用においては金利、クレジット、為替に対してファンダメンタルズ、バリュエーション、テクニカル等複数の視点で分析、ポートフォリオを構築し、トータル・リターンを最大化を目指した運用を行います。

[当資料に関しご留意いただきたい事項]

当資料は、インドネシアの証券市場と政治、経済、文化等にかかる情報提供のみを目的として、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社(「当社」)が株式会社DZHフィナンシャルリサーチに情報提供を依頼し作成したもので、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。当資料は信頼できると判断された材料を使い、十分な注意を払って作成していますが、当社および株式会社DZHフィナンシャルリサーチは、必ずしもその正確性、完全性をお約束するものではありません。また、掲載された企業につきましては、あくまで直近のトピックとしてご紹介させていただいたものであり、個別銘柄の売買の推奨を意図したのではなく、当社が運用を行う投資信託への組入れを示唆するものでもありません。